

日本をキリストへ 協力

「日本をキリストへ」
伝道団体連絡協議会

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1
TEL 03-3291-5035 (総動員伝道内)

世界宣教の 横糸として

伝道団体連絡協議会 会長 村上宣道



である。

しかしながら、教会組織に属していると思われる人たちが、いや、宣教組織に属しているはずの各種伝道団体の者たちですら、このような認識を果たして持っているのだからかと思わされることがないでもない。

伝道団体のことが、バラチャーチと呼ばれたりもする。このバラというのはギリシヤ語から来ているわけだが、このバラという言葉は、前置詞的に使われる場合が多いようだが、本来的には「そばに」とか「かたわらに」とかいう意味である。「かたわらに」と言えば、非常に近い関係と受け取れないでもないが、どこまでも交わらないパラレル

「世界宣教の歴史はModalityといわれる教会組織を縦糸とし、Solidity、つまり宣教組織を横糸として織りなされてきた一枚の布のようなもの」とは、宣教学の権威として知られるシェイファー博士の言葉

的な平行関係を意味するニュアンスもそこにはあるようだ。それが、そっくりそのまま、日本における教会と伝道団体との関係を表しているというのでなければよいのだが、どんなものだろうか。

JEAの組織やその総会などにおける協力会員という立場はまさにこのバラ、「かたわらに」置かれている状況をよく表しているとも言えそうだ。

それはともかくとしてわれわれ自身が、宣教組織とは、単に教会のかたわらにある添え物なのではなくて、宣教という歴史を織りなす、なくてはならぬ横糸的存在なのであるとの自覚がもつとあってもよいのではあるまいか。だからと言って、いわゆる伝道団体が教会と同等であることを主張する必要などは全くないし、むしろそうすべきではあるまい。

使徒の働きの一三章に、パウロとバルナバが教会から世界宣教に送りだされたという記事があるのとおり、教会に託された世界宣教の使命を果たすべく、教会から選んで、ある専門の人々にその働きを託したというところに、これはその端を発している。つまり、パウロとバルナバの働きが、決して教会とは別の働きであらうはずはなく、あくまで教会から生みだされ、教会のわざのある分野を専門に果たすために、委託された働きであったわけで、キリストのからだなる教会のわざとしての一体観をそこに見る。

われわれ伝道協は、その認識を確立させることと、そのことの啓蒙が、日本の場合まだまだ必要としている現状にあることのゆえに、その存在の重要さを思わずにはおられないのである。

(太平洋放送協会・理事長)

ユダヤ人との「平和の架け橋」を目指して

日本支部局長 高田篤美

二千年近い歴史的迫害によって、ユダヤ人は長年消し難い遺恨をクリスチャンに対して持ち続けています。その事実をふまえ、ブリッジス・フォー・ピース（BFP）は一九七六年に設立されました。エルサレムに本部を置き、クリスチャンとユダヤ人の和解のために、さまざまな活動を通してご奉仕しています。

イスラエルには、現在百二十カ国を超える国々から、毎月平均五千〜七千人の人々が帰還しています。彼らの多くは旧ソビエトからの帰還者で、貧困を極めています。また、エルサレムに古くから住む人々の中にも、食物がテールに上らないという人々が多数います。彼らの現状を知る中で、主が次のみことばをもってBFPの進むべき道を示してくださいました。

「彼らは確かに喜んでそれをしたのですが、同時にまた、その人々に対してはその義務があるのです。異邦人は霊的なことでは、その人々からもらいものをしたのですから、物質的な物をもって彼らに奉仕すべきです」（ローマ一五・二七）

BFPは早速フードバンク（食物配給センター）を立ち上げ、食物はもろろんのこと、聖書・台所用品・毛布・学用品などの配布を始めました。当初は持つて行った食べ物を投げつけられるようなこともありましたが。彼らの痛みが余りにも深かったからです。しかし、長い忍耐を要するご奉仕が、やっと実を結び始めました。世界中のクリスチャンがささげる祈りと無言の愛によって、イエス・キリストの愛に出会う人々が起こされ始めたのです！

BFPはイスラエルの地に根を張り、二十五年間クリスチャンとユダヤ人の和解を進めてきました。反キリスト教感情がだれよりも強いラビが、BFPの国際理事に就任したこともイスラエルの現実を知る人々にとっては驚きと言うしもありません。国際理事、M・バーナード・リスニコフ博士は、その就任挨拶でこうスピーチしました。

「ブリッジス・フォー・ピースは、我々との和解のために、ただ黙って純真に仕えている。ユダヤ人の必要を見て放っておかず、自分の親や

兄弟が食べられないかのように心を砕き、食べ物配り、寒い人々を暖め、絶望している人々に『あなたを思っています』という愛の行為を示している。私はこのような団体が、イスラエルにあることに感謝せずにはいられない。また、このような団体があることを、もっと広く多くの人に知らしめてほしい。なぜなら、この団体を知ったことが私の人生を変えたからである」と……。

「あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される」（創世記一二・三）

神のことばは永遠に変わることがありません。ブリッジス・フォー・ピース日本支部局はこのみことばに信頼し、イスラエルを祝福することで、日本にリバイバルの祝福をいただきたいと願っています。イスラエルに、日本に、そして全世界にリバイバルが起こりますように！！



「高校生による高校生伝道」は今も変わらず

高校生聖書伝道協会(H.S.B.A.)は一九三八年、ニューヨークにおいて発足した高校生を対象とした超教派伝道団体です。名称のH.S.B.A.は、high school born againersの略です。born againは「Unless one is born again, he cannot see the kingdom of God.」人は新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません」(ヨハネ三・三)という聖書のことばです。



創設の由来は、ある教会の高校生クラスを担当していたブランド・リードという信徒が、高校生の信仰を育てるには、日曜日に一時間のクラスをするだ

けでは不十分だと痛感し、ウィークデーに自宅で高校生集会を開いたことから始まります。リード氏は非常に熱心で、信者の高校生たちに、学校に聖書を持っていき、なぜ聖書を持ち歩くのかを聞く人には、信仰の証しをするように教えました。しかし当時のアメリカでは、だれもがクリスチャンだと思っているので、「私はクリスチャンです」と言うのは無意味だったので、「I am a born againer.」と言わせた、それがやがて会の名称になったということです。

未信者の高校生に福音を伝え、信じた高校生を、他の高校生に福音を伝える証人に育てるというそのスピリットは、今も変わりません。「高校生による高校生伝道」ということばをモットーとしています。

日本では一九五一年に宣教師によって始まり、一九七三年からは米国から独立した伝道団体として、東京・渋谷のE.P.A.センターを中心に、高校生のための数々の活動を展開しています。

活動の基本は毎週行う定期集会です。できるだけ教会堂を使わずに、一般の会場などを借りて行っています。残念ながら、教会堂は未信者の

高校生には敷居が高いからです。高校生が多数利用する駅から近くて、会場費が安く、宗教活動にも寛容で、大声で賛美もできる会場を苦労して捜して使っています。

次に、夏、冬、春の休みを利用してのキャンプ活動も大きな活動です。関東には、千葉県九十九里浜にE.P.A.キャンプ場を保有しており、夏は四〜五泊のキャンプを4回ぐらいい、冬、春は2泊3日のキャンプを二〜三回ずつ行っています。

また、単調になりやすい定期活動にメリハリをつけるため、土曜日や休日を利用して、さまざまなイベントも企画します。(日曜日には活動しません)

専門のE.P.A.スタッフが、活動の企画運営をします。その責任者として長く勤めた大竹一行に代わり、この四月からは吉枝隆邦が代表役員となりました。

現在、日本人フルタイム十一名、宣教師三名、協力スタッフ二名のスタッフがいます。そのうち十四名が関東におり、関西に二名おられます。



第十六回定期総会報告

二〇〇〇年度の定期総会は、四月十日に、お茶の水クリスチャンセンターで、加盟四十五団体のうち二十団体の出席、委任状十一団体、欠席十四団体で行われました。

役員改選

役員改選が行われ、新しく顧問に本田弘慈先生、羽鳥明先生を、新会長に村上宣道先生を選出いたしました。そのほか、選出された役員名は下段をご覧ください。

活動計画

活動計画では、新しく「伝団協ホームページ開設」が決められ、このための予算として三万円が計上されました。これは、インターネットを通じて伝団協と各団体の働きを紹介し、各団体の最新情報を発信することを目指しています。特に、まだホームページを持っていない団体の紹介に大きな力になると思います。

そのほか、例年どおり一泊研修会、情報交換会の開催、機関紙「協力」の発行などが決められました。今年は、六月に沖繩で第四回日本伝道会議、十一月に東京オペラシティで「東京大聖書展」が行われます。これらに良き協力ができることを願っています。

一泊研修会のご案内

今年の一泊研修会は、昨年に続き「コンピュータの活用」の二回目をいたします。講師は能城一郎、植杉献、有田睦先生です。クラスを三つに分け、

◆入門クラス—文書作成、住所管理、ラベルの出し方

◆中級クラス—e-mail、ホームページ

◆上級クラス—パワーポイント

としました。それぞれのレベル・興味に合わせて参加できるようにしました。多くの方の参加を期待しています。詳しくは、申し込み用紙が配布される予定です。

期日 十月十六日—十七日

会場 湯河原厚生年金会館

費用 一、〇〇〇円（一泊三食）



会場の湯河原厚生年金会館

二〇〇〇年度伝道団体 連絡協議会役員

会長 村上宣道（太平洋放送協会）

副会長 鈴木留蔵（日本キリスト伝道会）、

多胡元喜（いのちのことば社）、原登（日本

キリスト伝道会）

役員 岸田馨（お茶の水クリスチャン・セ

ンター）、松見睦男（日本キリスト宣教会）、

滝元明（全日本リバイバルミッショョン）、

常任役員 浅見鶴蔵（新聖書翻訳出版委員

会）、小町誠一（いのちのことば社）、小林

幸順（日本聖書協会）、鈴木優子（日本キリ

スト伝道会）、竹原淑夫（ライフミニストリ

ーズ）、中川信義（太平洋放送協会）、姫井

雅夫（総動員伝道）、渡辺佐次郎（お茶の水

クリスチャン・センター）

（隔月ごとに役員会を行っています）

発行日 二〇〇〇年六月三十日

発行者 村上宣道

編集者 小町誠一